

Pick Up 3

ノムラシステムコーポレーション ● 3940・JQ

**営業利益率12・8%で野村総研に肉薄
ITコンサルティングで成長中**

ノムラシステムコーポレーション(3940)は情報システム会社ではなく「システムコンサルティング企業」として把握すべきだ。同社が2月14日に発表した2016年12月期決算において、売上高営業利益率は12・8%をマーク。情報処理サービス業界の平均は3・48%で圧倒的な差が見て取れる。比較するならば、情報処理ではなく「コンサルティング」ということになるが、別表に記載した通り、

同業で上場している企業の中でも堂々5位に位置している。株価の面は、昨年9月にジャスタックに株式上場したばかりということもあり、時価総額で上位10社の中で最も低い。今後の株価修正余地は大きく残されていると言えよう。同社は、ERP(業務を統合管理する基幹システム)で世界トップの独・SAP社の研修を修了し認定を受けたITコンサルタントを139名(2017年1月27日現在)

も擁している。大手企業からの案件を中心に受注を拡大させてきた。受注の方法は二通り。ひとつは元請経由の案件に対し、ERP導入の専門コンサルティングサービスを行う「FIS」。単純な下請けではなく、大規模なシステム構築を行う際に、全体の指揮を執る元請けからSAP社のERPのスペシャリストとして招聘されるものだ。これが売上の約8割を占めている。もう一つは、クライアント企業に直接提案して受注する「プライム」だ。2016年12月期では売上の約2割を占めている。既存取引先からの継続案件受注が伸びていることに加え、新規受注も順調だ。業績面を詳しく見てみたい。2016年12月期決算は、当初の増収減益予想から一転

| 2016年12月期 通期業績 | | 2017年12月期 通期業績予想 | |
|----------------|-------------------|------------------|------------------|
| 売上高 | 24億4200万円 (7.7%増) | 売上高 | 25億100万円 (2.4%増) |
| 営業利益 | 3億1300万円 (23.4%増) | 営業利益 | 3億3700万円 (7.7%増) |
| 経常利益 | 3億1200万円 (22.9%増) | 経常利益 | 3億3500万円 (7.4%増) |
| 当期純利益 | 1億9400万円 (19.5%増) | 当期純利益 | 2億400万円 (4.9%増) |

※()は前年同期比



野村芳光 代表取締役社長

1969年4月、トヨタ自動車入社。1971年3月、データプロセスコンサルタント(現:アイレックス・ナレッジ)入社。1972年9月、三菱金属(現:三菱マテリアル)入社。1979年10月、ノース・アメリカ保険(現:エース損害保険)入社。1983年1月、損害保険代理店として独立。1986年2月、ノムラシステムコーポレーション設立。代表取締役就任(現任)

同社は今期も増収増益を計画している。期初の1月には大手プラントメーカーの大規模システムプロジェクトに

「増収増益」を達成。売上・経常利益ともに過去最高を更新している。増益着地となった要因としては、プライム案件において既存取引先からの継続案件の獲得が大きく貢献したことが挙げられる。「当社のコンサルタントが優秀だったから、2017年12月期に納品予定だった案件が繰り上がって納品できた。これもうれしい誤算ですが、2016年12月期の増益要因。もともと、期初の計画が慎重すぎる面もあるかと思えます」(野村芳光社長)

上場コンサルティング会社の営業利益率ランキング (2016年12月末時点)

| 順位 | 企業名 | コード | 市場 | 営業利益率 | 時価総額 |
|----|-----------------|------|----|-------|------------|
| 1 | 船井総研HD | 9757 | 東1 | 23.5% | 661億3300万円 |
| 2 | 山田コンサルティンググループ | 4792 | JQ | 23.4% | 237億2600万円 |
| 3 | 野村総合研究所 | 4307 | 東1 | 13.8% | 8810億円 |
| 4 | GCA | 2174 | 東1 | 13.4% | 318億2900万円 |
| 5 | ノムラシステムコーポレーション | 3940 | JQ | 12.8% | 29億9000万円 |
| 6 | テクノスジャパン | 3666 | 東1 | 12.4% | 129億300万円 |
| 7 | フューチャー | 4722 | 東1 | 10.8% | 345億5600万円 |
| 8 | タナベ経営 | 9644 | 東1 | 10.3% | 112億7500万円 |
| 9 | ISID | 4812 | 東1 | 8.1% | 584億400万円 |
| 10 | 三菱総合研究所 | 3636 | 東1 | 6.3% | 540億3500万円 |

において、2億円弱の案件を獲得。滑り出しは好調そのものだ。「配当性向は40%以上を考慮しています」野村社長は高水準の配当を志向しており、2016年12月期には普通配51円に加え、株式上場の記念配当51円を上乗せ。年間配当102円を実施する。こんな面にも株主還元を含め、自社の時価総額に対して「満足していない」感が現れているとも言える。